

## アセットマネジメント事業

# 好循環サイクルに入ったアセットマネジメント事業

### アセットマネジメント事業の主要企業

#### SBIインベストメント(株)\*

ベンチャーキャピタルファンド等の運用・管理

#### SBIキャピタル(株)

バイアウト・企業再生ファンド等の運用・管理

#### SBIキャピタルソリューションズ(株)

メザニンファンド等の運用・管理

#### SBIブロードバンドキャピタル(株)

ブロードバンドに特化したベンチャーファンドの運用

#### SBI KOREA HOLDINGS CO., LTD.

ベンチャーキャピタルインベストメント

#### SBIアセットマネジメント(株)

投資信託委託業、有価証券等に係る投資顧問業

\*2006年10月1日付でソフトバンク・インベストメント(株)より商号変更

アセットマネジメント事業では、既運用ファンドの好調なパフォーマンスを背景に、出資者への分配金が増加し、信用力・ブランド力が強化されると同時に、新規に立ち上げているファンドへの資金調達が容易となり、運用資産が順調に拡大していくという好循環サイクルに入っております。

### ITファンドの運用状況

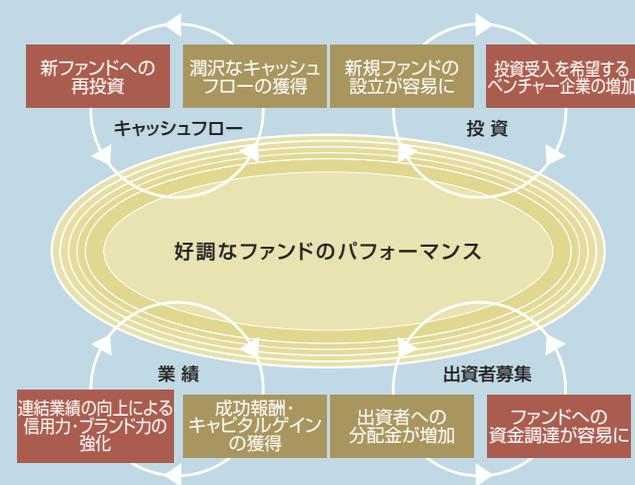
旗艦ファンドであるソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド(ITファンド)の2006年6月末時点での時価純資産額は、当初出資金1,505億円に対して約1.7倍の2,567億円に達しました(内訳:投資残高197億円、累計配当含む現預金2,030億円、含み益113億円、成功報酬227億円)。

尚、2006年4月にITファンド及びソフトバンク・インターネットファンドにおいて、含み益の現金化による出資者への分配見込額が大幅に増加するなど、業績ならびに信用力・ブランド力の強化に寄与しております。

### 新設ファンド

ITファンドが2007年6月に償還を迎えますが、その次期主力ファンドとして積極的に新ファンドを設立しており、2004年9月以降に設定してきた「SBIブロードバンドファンド(SBIブロードバンドキャピタル投資事業匿名組合とSBIブロードバンドファンド投資事業有限責任組合を総称)」(535億円で募集完了)や、その衛星ファンドの一つとして(株)フジテレビジョン、(株)ニッポン放送と共同で2005年3月に当初出資金額200億円で設立した「SBIビービー・メディアファンド(SBIビービー・メディア投資事業有限責任組合)」が順調に育っております。その後、2006年3月には「モバイルファンド(SBIビービー・モバイル投資事業有限責任組合)」の募集が順調に進み、募集上限金額の320億円で設立が完了しました。このファンドは、モバイルテクノロジー・モバイルコンテンツ・無線技術等に関連する企業のうち、中長期的に高い成長が見込まれる国内外の未公開企業が発行する株式・新株予約権等に投資し、今後拡大するモバイル&ワイヤレス関連のベンチャー企業を育成していきます。

### アセットマネジメント事業の好循環サイクル



### ITファンドの運用状況と成功報酬体系



成功報酬の算出テーブル  
 当初出資金を超えるキャピタルゲイン\*に対する成功報酬の割合  
 ・50%以下の部分⇒20%  
 ・50%超200%以下の部分⇒35%  
 ・200%超⇒50%  
 \*キャピタルゲイン≒簿価純資産-当初出資金

企業再生分野においては、上場株も対象とする「バリューアップファンド(SBI Value Up Fund 1号投資事業有限責任組合)」の募集が順調に進み、2006年9月に231億円で設立が完了しました。このファンドは、事業承継・MBO等をはじめとするバイアウト投資や企業再生投資等を積極的に推進し、高いパフォーマンスを目指します。

このように、各ファンド事業とも順調に進捗しており、今後も現状の運用資産残高を維持しながら同事業の推進を図ってまいります。

また、グローバルなアセットマネジメント事業の展開については、中国経済の今後の高い成長を見込み、中国への事業進出と現地市場の開拓を図っており、2005年5月にはシンガポールの投資会社TEMASEK Holdings (Private) Limited(テマセク・ホールディングス)の100%子会社と共同で、当初出資額1億米ドルの投資ファンド「New Horizon Fund」を設立し、同年9月に設立した北京駐在員事務所を拠点として、有望な中国企業へ積極的に投資を行ってまいりました。2006年8月には、インド最大の商業銀行State Bank of India(インドステイト銀行)の100%子会社であるSBI Capital Markets Ltd.と、インドの有望な新興企業を投資対象とする出資約束金額1億米ドルの投資ファンド共同設立について基本合意したほか、2005年9月には近年高い成長を遂げているマカオ(中国)に100%出資による現地法人を設立し、住宅不動産事業を起点とした投資を展開してまいります。

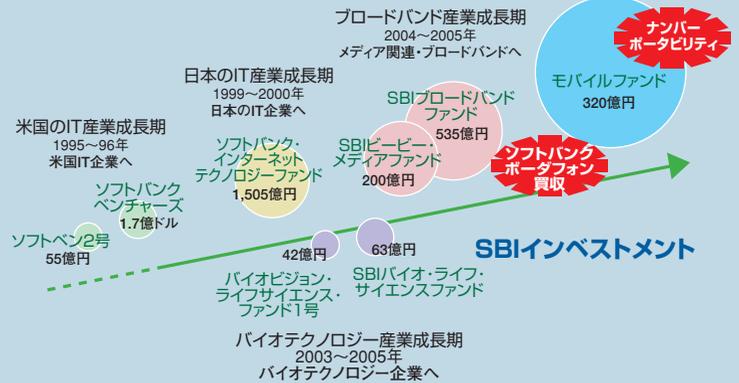
### 現在のSBIグループのファンド運用規模

従来より主要投資領域としてきたIT・バイオ・企業再生分野に加えて、新たなコアセグメントである不動産事業分野においても積極的に新ファンドの設定を行い、2006年6月末現在のSBIグループ全体の運用資産規模は、総額で4,776億円、投資企業数は300社(延べ社数)となっています。

### モバイルファンドの新規設立が完了

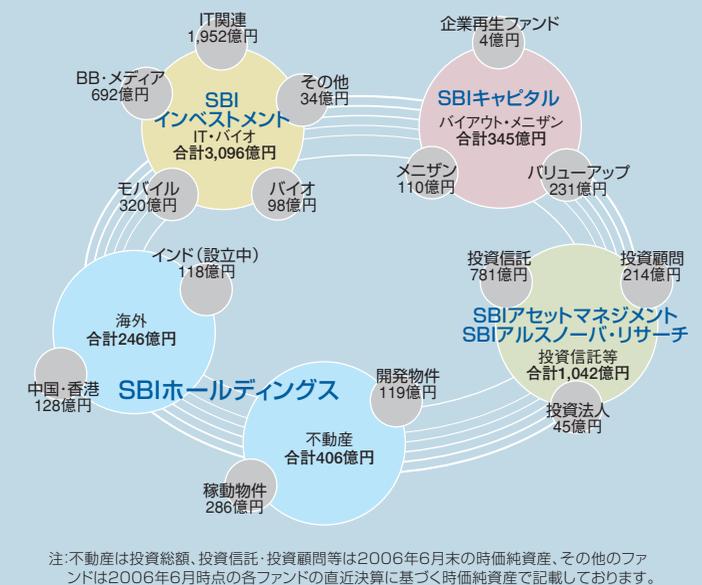
募集上限金額の320億円で設立が完了

モバイル&ワイヤレス産業成長期  
2006年～  
モバイル&ワイヤレスへ



### SBIグループファンド運用規模

今後大量に流入することが見込まれる運用資産を待ち受ける規模・質ともに充実したSBIグループの運用ラインナップ



注:不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2006年6月末の時価純資産、その他のファンドは2006年6月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載しております。

### 住宅不動産事業

SBIグループの新たなコアビジネスとして、金融の枠組みを超える成長分野として「住宅不動産事業」への取り組みを本格化させております。

物件の開発からファンドの出口戦略まで、SBIグループのビジネスラインを最大限活用して、資産価値の向上が見込まれる不動産物件に対して積極的に投資し、不動産投資ビジネスを強力に推進しています。

新設ファンドについては、当社グループのベンチャー投資における強みを活かし、未公開株式を組入れた公募型不動産ファンド「SBI未公開株式組入不動産ファンド匿名組合(愛称「四葉のクローバー」)」の組成を行い、グループのネット証券会社SBIイー・トレード証券(株)及び、リアル証券会社SBI証券(株)を通じて個人投資家へ販売するなど、グループ内の経営資源を最大限に活用しております。

また、2006年9月に、中国の特別行政区として近年高い成長を遂げているマカオにおいて、100%出資による現地法人「SBI MACAU HOLDINGS LIMITED」を設立しました。好調な観光・娯楽産業、大型カジノ設立計画などを背景に居住・商業用不動産の需要が急拡大しているマカオにおいて、当社は住宅不動産事業を起点とした投資を展開してまいります。

